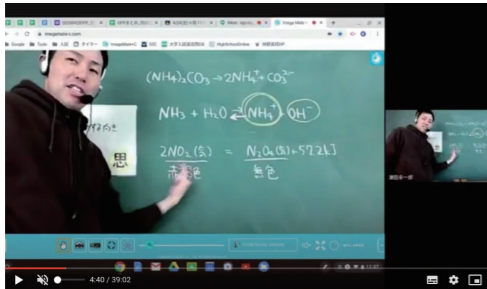


クラウドとリアルな「2つの教室」を活用。

岡山県立林野高等学校

<http://www.hayasino.okayama-c.ed.jp/>

平成29年度から、新入生はひとりが1台ずつパソコン(Chromebook)を購入。現在では全生徒が所有しています。インターネット上に動画やスライドなどの授業に関連した資料や意見共有シートを置き、リアルな授業を補完する教材として、また活発かつ気軽にできる意見交換の場として活用することで、相乗効果を発揮しています。コロナ禍で休校が続いていた5月にはすべての教科でオンライン授業を実施できました。



※クラウドとは、インターネットを通じてサービスを利用する方式のこと。

実践的な英語力が身に付く「オンライン英会話」。

岡山県立笠岡高等学校

<http://www.kasaoka.okayama-c.ed.jp/wp/>

校内のパソコンを海外とつなぎ、現地のネイティブスピーカーとマンツーマンで英会話する「オンライン英会話」を年に2回実施。「実践的な英語力が身に付く」と生徒からも好評です。また、すでに全教室にプロジェクターとパソコンを設置済みで、令和3年度には生徒ひとりにつき1台の「iPad」を導入します。そのほか、保護者との連絡には情報共有のためのインターネット上のツールを活用しています。



岡山県
もっと!

岡山県民の「どねえなん?」にお答えします!

岡山県の魅力をホームページで配信!

どねえなん? Honma no toko done-nan?

今回はちょっと辛口で好奇心旺盛な女の子「どねえなんちゃん」と、「どがーなんとうちゃん」が岡山県の魅力や取り組みについてツッコみます!

今月のテーマ

学校でのICTの活用

県内の教育現場でもICTが導入されつつあり、授業では新たな試みも行われています。県立学校の動きを中心に紹介します。

より便利に、より新しい学びが生まれるように。教育現場でICT環境の整備が進んでいます。

岡山県教育庁 高校教育課 伊藤稔文さん



学校の特性を生かした活用がされていますよ

ICTを使ってこんな授業が行われています。

先駆けて取り入れている学校では、今までできなかった新しい授業やコミュニケーションが生まれ、新たな学びとなり成果も出ているようです。

こんなこともできるようになるんじゃ〜



最先端のシステムを活用した「スマート農業」を実践。

岡山県立興陽高等学校

<http://www.koyohigh.okayama-c.ed.jp/>

ICTを活用して農作業の負担を軽減する「スマート農業」を実践。農業科では、GPSを搭載した無人トラクターでの耕作やドローンによる生育管理、インターネット上のツールを使った栽培管理データの共有などを行っています。農業機械科では、生徒自身がプログラムを組み立て小型ドローンを飛ばしたり、スマホでビニールハウスを遠隔操作したりしています。令和3年度は、新たに農業機器を導入し、地元企業と共同研究を始めます。

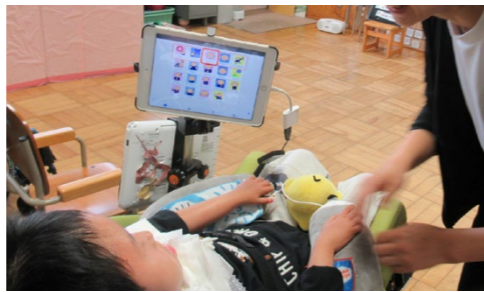


体の不自由な子どもが意思を伝える道具に。

岡山県立早島支援学校

<http://www.hayasima.okayama-c.ed.jp/>

体を自由に動かせない子どもが、視線を感知するセンサーを使ってディスプレイ上のイラストや文字を選択したり、動かせる手先や足先でスイッチを押して録音した音声を再生したりと、意思疎通を図る道具としてICTを活用しています。本人にとっては、自分で何かができ、意思を伝えることができる喜びにつながり、周囲の人にとっても表情では伺えない内面を知ることができる大切なツールとして活用が広がっています。



家にもWi-Fi整備しとがんと



ひとり1台の端末を持つとこんなメリットが!

予習・復習事項はICT活用で共有し、リアル授業を有効活用

授業前にインターネット上に動画や資料を配信し生徒それぞれが予習することによって、リアル授業では対話や実験など主体的に考える時間をしっかり設けられるように。授業後もインターネット上で授業内容の振り返りを共有できます。

情報共有しやすい

連絡事項や翌日の授業内容の事前告知など、学校からの情報をペーパーレスでいつでも確認できるメリットが。課題もオンラインでの提出が可能に。自宅でも活用でき家族で共有しやすいほか、児童・生徒同士でも情報共有できるのでグループでの共同作業もスムーズです。

ICTとは、情報通信技術のこと。コロナ禍で生徒が登校できないときにオンラインで授業を実施した学校もあり、その有効性を認識した人も多いのでは? 児童・生徒一人ひとりがそれぞれ端末を使って学べるよう、県内の学校でも環境整備が進められています。今回は、県立学校の取り組みを中心に、教育現場のICT環境の整備について、またそこから生まれた新しい動きについてご紹介します。

Wi-Fi 学校では環境整備中!!

高速大容量の通信環境の整備

校内で無線LANが使えるように通信環境の整備を進めています。

生徒がパソコンをひとり1台持つように!

岡山の県立高校では、令和3年度または4年度の新入生から、パソコンやタブレット端末を保護者に購入してもらう予定。将来的には生徒一人ひとりがパソコンやタブレット端末が使えるように!

※セキュリティ管理の問題もあり、学校ごとに指定された端末を購入することになります。



先生は
どう思ってるん？



県内でも先進的な取り組みをしている 県立林野高校の先生にインタビュー！

県内でもICTの活用に熱心に
取り組んでいるのが『岡山県立林野高等学校』。
その先進的な取り組みは高い評価を得ています。
チームリーダーとしてICT活用を進める
瀬田先生に、ICTを学びの場で使うメリット、
気付きについて聞いてみました。



岡山県立林野高等学校 瀬田幸一郎先生
担当教科は化学。校内に7人いるICT活用プロジェクト
チームのリーダーを務めている

ICT活用で感じた可能性



事前に動画やスライドなどで授業内容を
把握してもらえることにより、実際の授
業ではすぐに実験や意見交換など主体的
に活動することができました。また、パソコン
の画面を見ながら生徒同士で話し合っ
たり、帰宅後も友だちと授業内容を共有し
会話のきっかけになったりと、自ら行動するようになり深い学びにつな
がっています。また、グループ内で対話しながら協働して課題に取り組む
機会も増え、生徒の表現能力やコミュニケーション能力も高くなりました。



▲化学の授業の様子

授業に参加しやすくなった

授業中に質問したくても、手を挙げて発言することにためらいを感
じる人も多くはまず。インターネット上に授業中や授業後に見られる共
有シートを用意して、自分のパソコンからコメントを投稿して質問
できるので、授業に参加しやすいと評判です。自分が投稿しないと見
ることができないような設定もあり、自主的な参加を促す仕組みも用
意しています。

今後していきたいこと

生徒ひとりに1台のパソコンを導入するようになっ
て4年目。オンライン授業やインターネット上での情報
共有によるペーパーレス化、生徒会選挙や保護者懇
談のオンライン化など、これまでの経験があったから



▲美作市の教員に向けた研修

こそ踏み切れた試みが
多くありました。これら
のノウハウを、美作市内
の小・中学校や同じ県
立高校などに伝えてい
ければと考えています。



情報モラルや セキュリティ対策に ついての学びの場に



パスワードの重要性やアクセス制限があるページの意味
など、ネット社会で生きるための知識を授業でパソコンを使
う中で学べるようにしています。またインターネット上で発
言する際は内容や表現方法について読み手のことを意識す
るよう指導するなど、ネット社会でトラブルに遭わないため
の指導も行っています。

ICTは今後の私らには
不可欠じゃから、
情報と技術を上手に使って
いけるようにならんとな！

